

## 与正氏、日米韓切り離し狙う 南山大・平岩俊司教授に聞く

2024-04-03・大阪朝刊・国際面

### ■日朝交渉「しびれ切らし暴露」

### ■総選挙控える韓国与党に打撃も

岸田文雄首相が意欲を示す日朝首脳会談に対し、北朝鮮の金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党総書記の妹、金与正（ヨジョン）党副部長が2月と3月に相次いで談話を出した。一連の発言の狙いと交渉の行方について、朝鮮半島を巡る国際関係を研究する南山大の平岩俊司教授に聞いた。（石川有紀）



――与正氏は「岸田首相から会談の打診があった」と明かし、3月26日には日本側との交渉を拒否すると表明した。その狙いは

「北朝鮮が本当に交渉する気があるならば、金与正氏の談話のような形で途中経過を公表することはないはずだ。一連の動きは昨年5月、岸田文雄首相が日朝首脳会談実現のために高官協議を行いたいと発言したことから始まった。その2日後、北朝鮮の外務次官が反応し、『拉致問題は解決済み』と主張した。そのような前提では日本は交渉に乗れない。本格的な協議開始前の段階で折り合いがつかなかったのではないか」

「日本側が一步も譲らないことにしびれを切らし、メッセージ性で注目度が高い与正氏が談話を出した。交渉の形態を明らかにしたのは外交ルール違反。交渉を本格的に進めるつもりがないということだろう」

――拉致問題で協議を拒否した意図は

「談話では、拉致問題を前提条件としないことに加え、核・ミサイル開発を指すとみられる『正当防衛権』についても認めよと繰り返し主張した。日本政府が拉致、核・ミサイルの包括的解決を目指していることをわかっていながらこうした主張をするのは、北朝鮮側に日本と対話する意図はないということだ」

「日本との接触を暴露することで日米韓を離間し、4月の韓国総選挙で与党に打撃を与える意図も浮かがる。韓国の尹錫悦（ユンソンニョル）政権は、韓国世論に対日外交で大幅に譲歩していると受け止められている。さらに、北朝鮮との交渉で日本に出し抜かれそうだと疑心暗鬼に陥らせようとしている」

――日朝交渉を動かすにはどうしたらよいか

「この交渉が難しいのは、拉致被害者の状況について情報が少ないことだ。日本側からすれば、拉致被害者をすべて帰すのは当然のことだが、北朝鮮側には日本が戦後処理をすべきだとの考えがある。北朝鮮が日本に対して拉致問題というカードを切るとしたら、国交を正常化して、大規模な経済支援を出すときしかない」と私は考えている。しかし、核・ミサイルの問題も同時に解決しなければ、国交正常化はできない」

――日本政府は2002年9月の日朝平壤宣言に基づき、拉致、核、ミサイルといった諸懸案を包括的に解決するとの方針だ

「日朝平壤宣言は双方破棄しておらず、拉致被害者の『再調査』を約束したストックホルム合意に立ち戻って交渉を始めることは可能とみている。しかし、今の国際情勢の中で、北朝鮮が姿勢を変えるとは思えない。北朝鮮はロシアへの武器供給によりエネルギーや食糧を得て、経済的に困っていない。米バイデン政権からのアプローチには反応せず、核・ミサイルで国防力を上げて次の政権との交渉に備えているようだ」

(c) The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.